



# CHAPTER 3

## Cisco Unified Videoconferencing 5100 MCU 環境の設定

- 「ユーザ インターフェイス言語の設定」 (P.3-1)
- 「Cisco Unified Videoconferencing 5100 MCU ID の設定」 (P.3-2)
- 「Cisco Unified Videoconferencing 5100 MCU の日時の設定」 (P.3-2)
- 「アドレス設定の変更」 (P.3-3)
- 「Cisco Unified Videoconferencing 5100 MCU のセキュリティ設定」 (P.3-4)
- 「Web サーバ証明書の作成およびインポート」 (P.3-4)
- 「SNMP トラップ サーバの管理方法」 (P.3-5)
- 「Quality of Service の設定と表示」 (P.3-6)

### ユーザ インターフェイス言語の設定

MCU でサポートする言語を設定できます。表 3-1 に、MCU でサポートされる言語の一覧を示します。



(注)

管理インターフェイスで中国語または日本語のフォントを表示するには、Web ブラウザを実行しているコンピュータがその言語をサポートしている必要があります。Microsoft Windows オペレーティングシステムでは、[Control Panel] > [Regional and Language] オプションでデフォルトの言語を設定できます。

表 3-1 MCU インターフェイスでサポートされる言語

言語	管理インターフェイス	会議制御インターフェイス	会議ビデオのテキストオーバーレイ
英語	*	*	*
中国語 (簡体字)	*	*	*
日本語	*	*	*
ポルトガル語	*	*	
スペイン語	*	*	
ロシア語	*	*	

### 手順

- 
- ステップ 1 MCU ユーザ インターフェイスで [Configuration] を選択します。
  - ステップ 2 [Setup] を選択します。
  - ステップ 3 [Basics] セクションを見つけます。
  - ステップ 4 [Default user interface language] フィールドで言語を選択します。
  - ステップ 5 [Apply] をクリックします。



[注] [Configuration] > [Customization] でテキスト オーバーレイを設定します。詳細については、「[テキスト オーバーレイの言語の設定](#)」(P.6-1) を参照してください。

---

## Cisco Unified Videoconferencing 5100 MCU ID の設定

MCU ID を設定できます。この ID は、次の状況で MCU を識別します。

- ゲートキーパー /SIP の登録中
- エンドポイントを会議に招待するとき
- カスケード会議でカスケードされた MCU にテキスト オーバーレイを使用するとき

### 手順

- 
- ステップ 1 [Configuration] を選択します。
  - ステップ 2 [Setup] を選択します。
  - ステップ 3 [Basics] セクションを見つけます。
  - ステップ 4 [MCU Identifier] フィールドに ID を入力します (最大 32 文字)。例: 「London office」。
  - ステップ 5 [Apply] をクリックします。
- 

## Cisco Unified Videoconferencing 5100 MCU の日時 の設定

### 手順

- 
- ステップ 1 [Configuration] を選択します。
  - ステップ 2 [Setup] をクリックします。
  - ステップ 3 [Basics] セクションを見つけます。
  - ステップ 4 (オプション) [Date and time] セクションで [Set manually] を選択します。


- ステップ 5 [Get local time] をクリックするか、またはカレンダー アイコンをクリックして目的の時間を設定します。
  - ステップ 6 (オプション) [Set NTP server] を選択し、時刻をネットワーク サーバの時計と同期させます。
  - ステップ 7 目的の NTP サーバの IP アドレスを入力します。
  - ステップ 8 時間帯を選択します。
  - ステップ 9 [Apply] をクリックします。
- 

## アドレス設定の変更

MCU の IP アドレス情報、DNS 情報、イーサネット ポートの速度、二重設定を変更できます。

### 手順

---

- ステップ 1 [Configuration] を選択します。
  - ステップ 2 [Setup] を選択します。
  - ステップ 3 [Network] セクションを見つけます。
  - ステップ 4 IP アドレス設定を変更するには、次のいずれかの手順を実行します。
    - a. MCU に割り当てる IP アドレスを [IP address] フィールドに入力します。
    - b. MCU で使用するルータの IP アドレスを [Router IP] フィールドに入力します。
    - c. MCU で使用するサブネット マスクを [Subnet Mask] フィールドに入力します。
  - ステップ 5 DNS 情報を変更または追加するには、次の手順を実行します。
    - a. 現在の MCU に割り当てるエイリアスを [DNS suffix] フィールドに入力します。
    - b. MCU で使用するプライマリ DNS サーバの IP アドレスを [DNS server1] フィールドに入力します。
    - c. MCU で使用するバックアップ DNS サーバの IP アドレスを [DNS server2] フィールドに入力します。
  - ステップ 6 イーサネット ポートと二重化の速度値を選択し、[Port settings] フィールドに設定します。
    -  (注) [Port settings] オプションを [Auto] に設定することを推奨します。
  - ステップ 7 [Apply] をクリックします。
-

# Cisco Unified Videoconferencing 5100 MCU のセキュリティ設定

外部プログラムによる MCU に対するアクセスを設定できます。これらの外部プログラムには、Telnet、Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル)、File Transfer Protocol (FTP; ファイル転送プロトコル)、Internet Control Message Protocol (ICMP; インターネット制御メッセージプロトコル、「ping」) などがあります。

## 手順

- 
- ステップ 1 [Configuration] を選択します。
  - ステップ 2 [Setup] を選択します。
  - ステップ 3 [Security] セクションを見つけます。
  - ステップ 4 MCU でサポートするアクセス レベルを [Security mode] フィールドで選択します。
    - [Standard] : SNMP、Telnet、FTP、および ICMP による MCU へのアクセスを許可します。
    - [High (no Telnet or FTP)] : SNMP と ICMP による MCU へのアクセスだけを許可します。
    - [Maximum (no Telnet, FTP, SNMP, or ICMP)] : 外部プログラムによる MCU へのアクセスを禁止します。
  - ステップ 5 [Apply] をクリックします。
- 

# Web サーバ証明書の作成およびインポート

## 手順

- 
- ステップ 1 [Configuration] を選択します。
  - ステップ 2 [Setup] を選択します。
  - ステップ 3 [Security] セクションを見つけます。
  - ステップ 4 ウィザードで、[Manage] を選択すると Web サーバ証明書を作成できます。[Import] を選択すると既存の証明書をインポートできます。または、[Export] を選択して既存の証明書をファイルに保存できます。
  - ステップ 5 [Enable HTTPS] を選択します。
  - ステップ 6 [Apply] をクリックします。
-

## SNMP トラップ サーバの管理方法

- 「SNMP トラップ サーバの表示」 (P.3-5)
- 「SNMP トラップ サーバの設定」 (P.3-5)
- 「SNMP トラップ サーバの変更」 (P.3-6)
- 「SNMP トラップ サーバの削除」 (P.3-6)

### SNMP トラップ サーバの表示

#### 手順

- 
- ステップ 1** [Configuration] を選択します。
  - ステップ 2** [Setup] を選択します。
  - ステップ 3** [Trap servers] セクションに、MCU の SNMP トラップの送信先として設定済みの SNMP トラップサーバがすべて表示されます。
- 

### SNMP トラップ サーバの設定

MCU の SNMP トラップの送信先として、複数の SNMP トラップサーバの IP アドレスとポート番号を指定できます。

#### 手順

- 
- ステップ 1** [Configuration] を選択します。
  - ステップ 2** [Setup] を選択します。
  - ステップ 3** [Trap servers] セクションを見つけます。
  - ステップ 4** [Add new server...] を選択します。
  - ステップ 5** SNMP トラップサーバの IP アドレスとポートを入力します。  
SNMP サーバのデフォルトのポートは 162 です。
  - ステップ 6** [Apply] をクリックして設定を保存します。
-

## SNMP トラップ サーバの変更

### 手順

- ステップ 1 [Configuration] を選択します。
- ステップ 2 [Setup] を選択します。
- ステップ 3 [Trap servers] セクションを見つけます。
- ステップ 4 変更するサーバの [Review] カラムでボタンを選択します。
- ステップ 5 必要な設定を変更します。
- ステップ 6 [Apply] をクリックして設定を保存します。

## SNMP トラップ サーバの削除

### 手順

- ステップ 1 [Configuration] を選択します。
- ステップ 2 [Setup] を選択します。
- ステップ 3 [Trap servers] セクションを見つけます。
- ステップ 4 削除するサーバの [Review] カラムでボタンを選択します。
- ステップ 5 [Delete] をクリックします。
- ステップ 6 [Yes] を選択して削除を確認します。

## Quality of Service の設定と表示

設定済みのシステム設定を使用するか、またはユーザ固有の設定を作成して、ビデオ コールや音声 コールに Quality of Service (QoS) のプライオリティ レベルを割り当てることができます。

QoS を設定する場合、MCU を設定してアウトバウンド パケットの IP ヘッダー内に、DiffServ Code Point (DSCP; DiffServ コード ポイント) 値を追加します。QoS をサポートするネットワーク上のルータは、そのようなコード化パケットに帯域幅、遅延、ジッタの優先処理を指定し、パケット転送の効率を向上できます。MCU の QoS パラメータは、音声コール、ビデオコール、またはその両方に対して設定できます。

### 手順

- ステップ 1 [Configuration] を選択します。
- ステップ 2 [Setup] を選択します。
- ステップ 3 [QoS] セクションを見つけます。
- ステップ 4 [Enable QoS support] を選択します。

- ステップ 5** 次のいずれかのオプションを選択して、メディア タイプごとに必要な DSCP 値を設定します。
- [Auto attendant service]: 各メディア タイプにデフォルトの DSCP 値が割り当てられます。このデフォルト設定は、Cisco の推奨値です。
  - [Custom]: 各メディア タイプにユーザ固有の DSCP 値が割り当てられます。
- ステップ 6** (オプション。[Custom] を選択した場合にだけ) 次の手順を実行します。
- [Video calls] セクションの [Voice priority] フィールドに 0 ~ 63 の整数を入力し、MCU が送信する音声パケットの DSCP 値を設定します。デフォルト値は 34 です。
  - [Video calls] セクションの [Video priority] フィールドに 0 ~ 63 の整数を入力し、MCU が送信するビデオパケットの DSCP 値を設定します。デフォルト値は 34 です。
  - [Audio calls] セクションの [Voice priority] フィールドに 0 ~ 63 の整数を入力し、MCU が送信する音声パケットの DSCP 値を設定します。デフォルト値は 46 です。
- ステップ 7** [Apply] をクリックします。
-

■ Quality of Service の設定と表示